

# 耐震診断結果一覧

## 【屋体】

平成26年4月1日

No.	学校名	棟番号	枝番号	構造	階数	建築年月			保有面積	耐震性能			耐震補強年度	備考
						元号	年	月		Is値	CT×SD値	q値		
1	帯広小学校	2	1	S	1	S	48	8	834	0.75	-	1.38	H14	
			2	R	2	S	48	8	95	0.91	1.51	-	-	
2	大空小学校	2	1	S	2	S	48	9	1,028	0.90	-	1.64	H21	
3	帯広第八中学校	3	-	S	1	S	49	3	1,000	0.91	-	1.66	H18	
4	大空中学校	3	1	S	1	S	49	11	1,000	0.95	-	1.73	H21	
5	大正小学校	2	-	S	1	S	49	12	816	0.92	-	1.68	H19	
6	南町中学校	4	-	S	1	S	50	11	1,000	0.86	-	1.57	H19	
7	広野小学校	2	1	S	1	S	51	5	512	0.75	-	1.37	H19	
			2	S	1	S	51	5	40					
8	帯広第二中学校	19	1	S	1	S	52	11	800	0.87	-	1.58	H18	
9	西陵中学校	6	1	S	2	S	53	3	940	0.72	-	1.16	H18	
			2	R	2	S	53	3	53	1.00	0.33	-	-	
10	明星小学校	4	-	S	1	S	53	8	1,180	0.77	-	1.40	H20	
11	柏小学校	3	1	S	1	S	53	9	1,164	0.81	-	1.48	H20	
12	川西小学校	3	-	S	1	S	54	3	658	1.03	-	1.88	H20	
13	広陽小学校	5	-	S	1	S	54	10	981	0.94	-	1.71	H18	
14	川西中学校	3	1	S	1	S	54	11	714	0.87	-	1.58	H18	
15	帯広第七中学校	3	1	S	1	S	55	11	714	0.76	-	1.83	-	
16	清川中学校	2	1	S	1	S	55	11	714	0.79	-	1.89	-	
合計	16	16							14,243	18		18		

※昭和56年5月31日以前に建築確認を得て建設された建物で、2階建て以上又は延べ床面積 200㎡超の建物が診断の対象

※構造欄のRは鉄筋コンクリート造、Sは鉄骨その他造の略

※Is値とは、「構造耐震指標」(Seismic Index of Structure) 建物の構造的な耐震性能を評価する指標で Is値が大きいほど耐震性が高い。

※国土交通省告示第184号(平成18年)においてIs値について、Is値 0.3 未満は、大規模地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高いとされ、

Is値 0.6 以上は、倒壊または崩壊する危険性が低いとされている。

0.3 未満：大規模な地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高い。

0.3 以上～0.6 未満：大規模な地震に対して倒壊または崩壊する危険性がある。

0.6 以上：大規模な地震に対して倒壊または崩壊する危険性が低い。

※大規模な地震とは、震度6強以上の地震

※CT×SD値とは、鉄筋コンクリート造建物の保有水平耐力を示す指標で 0.3 以上ある建物は安全とされている。

※q値とは、鉄骨造建物の保有水平耐力を示す指標で 1.0 以上ある建物は安全とされている。

※保有水平耐力とは、建物が地震による水平方向の力に対して対応する強さのことで各階の柱、耐力壁及び筋かいが負担する水平せん断力の和として求められる値をいう。